

第4号

石川町の史実

題字 有波良枝さん

【発行】
 明治大学商学部
 中川ゼミナール
 石川町プロジェクト
 【協力】
 石川町商店街協同組合

石川町交通の変遷

石川町は、東西に流れる中村川や横浜港に近いため、古くから水上交通が発達していた。今回は、石川町の交通の歴史について追ってみる。

一九〇四年(明治三十七年)から一九七二年(昭和四十七年)まで横浜の街には横浜市電が走っていた。最盛期には二〇路線が市内を走り、市民の重要な足として

親しまれていた。桜木町駅前から市庁前、石川町商店街・元町商店街の目の前である元町電停を通り、本牧へ抜ける本牧線が石川町を駆け抜けた。本牧線の元町〜麦田町電停間には全国的にも珍しい市電専用トンネル「本牧隧道」が一九一一年(明治四十四年)に開設され、横浜市電の象徴的存在となつた。

悲願であり、駅周辺には女子中・高校が多く、女学生が多く利用することから「乙女駅」という愛称で呼ばれている。根岸線開通の一方で、輸送力や路線網、渋滞の原因となり存在意義が問われていた横浜市電は、一九七二年に全廃となつた。

一九七八年(昭和五十二年)に首都高速神奈川一号横羽線が開通、一九九〇年(平成二年)に神奈川三号狩場線とを結ぶ石川町ジャンクションが建設された。しかし、中村川の上に高架橋で建設されたため、景観悪

化や空気汚染などの問題が上がつている。

以後、元町や中華街といった横浜の観光地への最寄り駅として役割を果たしてきた石川町駅。二〇〇四年(平成十六年)に横浜高速鉄道みなとみらい線(横浜〜元町・中華街)が開通すると、最寄り駅ではなくなつてしまつたが、三〇年前の開通時の思いを忘れずに、今もなお石川町の住民の方々に愛されている。

「広告掲載したい方、石川町の歴史的な情報をお持ちの方、aki.takemura@excite.co.jp」



元町電停付近 (一九六〇年代)

悲願の国鉄開通

戦後の横浜は、市街地が急拡大し交通量も増加した。一九六四年(昭和三十九年)に国鉄根岸線(桜木町〜根岸)が部分開業し、石川町駅が誕生した。また、一九七三年(昭和四十八年)には全線が開通した。石川町駅誕生は住民の



↑根岸線開業時の石川町商店街 (1964年)

メス牛へのこだわり

グルメレポート 第四回〜食彩和牛しげ吉〜



↑新鮮なメス牛を使った幻三品盛

【DATA】
 食彩和牛 しげ吉 元町店
 住所：中區石川町1-15 SAZAビルB1F
 電話：045-308-7246
 時間：17：00〜24：00 月曜定休

今回のグルメレポートでは「食彩和牛しげ吉」さんに向わせていただきました！地下の出入り口へと続く階段を下りた先には、お店に入った瞬間あつたかいなりと感ぜさせてくれる優しい空間が広がっていました。お店のこだわりは、和牛A-5ランクのメス牛を使用していること！オス牛より出生比率が低いメス牛は、キメが細かく上質で、味も濃が濃いそうです。店長さんにおすすめの品を出してもらいました。「幻三品盛」はカルビ・ロース・ハラミが盛りだくさんで、和牛一頭のもので一杯になるという多くの方が認めるこのお店ですが、認められている理由が食べた瞬間理解できました。(文 上田)